

1. シラバス

授業科目名	家政学原論	単位数	2
開講年次	1年	学 期	前学期
担当教員	八幡（谷口）彩子		
科目分類	専門科目（教科に関する科目）		
選択／必修	選択	授業形態	講義
授業の目標	4年間の家政教育に関する専門領域の入門編として、家政学の学問論、対象論の理解を通じて家政学の全体像をつかみ、総合的に生活をとらえる家政学的視点を育成するとともに、家庭生活が人間生活において果たす役割について考える。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家政学とは何か 2. 家政学原論の由来 3. 家政学成立の略史（1）－日本編 4. 家政学成立の略史（2）－アメリカ編 5. 家政学の名称および定義 6. 家政学の対象および目的 7. 家政学の性格・方法・体系および独自性 8. 人間の家庭生活のもつ意味（1） 9. 人間の家庭生活のもつ意味（2） 10. 現代における家庭の機能 11. 日本における家政学の主要概念の発達 12. 人間の生涯発達と家政学 13. 家政学の社会的展開 14. これからの家政学 15. まとめ 		
テキスト	テキストの指定は行わない。		
参考文献	<p>亀高京子監修『若手研究者が読む「家政学原論」2006』家政教育社(2006)</p> <p>V・B・ヴィンセンティ、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社(2005)</p> <p>松岡明子編著『家政学の未来－生活・消費・環境のニュー・パラダイム－』有斐閣(2004)</p> <p>八幡(谷口)彩子『明治初期における翻訳家政書の研究』同文書院(2001)</p> <p>亀高京子・仙波千代『家政学原論』光生館(1981)</p> <p>(社)日本家政学会家政学原論部会監修『家政学 未来への挑戦』建帛社(2001)</p> <p>S.ステイジ、V・B・ヴィンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社(2001)</p> <p>(社)日本家政学会編『新版 家政学事典』朝倉書店(2004)</p> <p>※その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。</p>		
評価方法・基準	授業時の小レポート等（50%）、試験（50%）により判定する。		

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

① 日本では、家政系の学部で学んでいる学生が、家政学とはどのような学問なのか、学習する機会が保障されていません。これは、日本の家政学教育の大きな問題点です。この「家政学原論」では、家政学がどのような学問なのか、学生に理解と思考を促すために、日米の家政学成立史、家政学の名称・定義・体系・独自性などの学問論、研究対象である家庭生活の意義や現代的機能と将来展望、アウトリーチ（社会貢献）のあり方などについて、授業を行っています。

② この「家政学原論」は、中学・高校の家庭科の教員免許取得のために、専門科目（選択）として1年・前学期に開講しています。家政学に関する4年間の専門科目を見通し、家政学的視点を持って、食物学や被服学などの専門科目の学習に取り組めるよう、専門科目への導入編と位置づけています。また、家政学全体を見通す視点を持つことは、家庭科という教科の全体像について見通しを持つことにもつながります。個別専門科目では、教科名でもある「家庭」をどのように理解したらよいのか、考える機会は多くありません。家庭科に関する教員養成学部だからこそ、「家政学原論」を学ぶ必要性があるのではないのでしょうか。

③ 受講生は10名以下という少人数授業のよさを生かして、毎回学生とのディスカッションを行っています。ディスカッションのテーマは、「家政学や家庭科に対する批判や軽視の風潮に対し、あなたは家政学や家庭科を学ぶ意義をどのように主張しますか?」「アメリカにおいて家政学の成立が早かったのはなぜ?」「これから家庭はどのように変化していくと思いますか?そうした変化をふまえて、家庭科ではどのような内容を扱っていくべきと考えますか?」「家政学の定義を、家庭科で学ぶ具体的な内容に即して説明してみよう」などなど。

④ 第1時間目の授業で、大学に入学したての学生に、「家政学（家庭科）とは何か」というテーマで小レポートと、そのイメージを図で示す、という課題に取り組ませています。総じて、入学したばかりの学生は、家政学（家庭科）にどのような領域があるのかという認識が偏っていたり、それらの領域間にどのような関係があるのか、家政学や家庭科に関する十分な概念化ができていません。学生の図を紹介してみましよう。→

